

大型類人猿情報ネットワーク(GAIN)2020 年度第 2 回運営連絡会議事録

日時：2021 年 2 月 6 日（土）11:00~12:00

オンライン開催（Zoom ミーティング）

出席者：伊谷原一（京都大学野生動物研究センター・事業代表者）、幸島司郎、村山美穂、田和優子（以上、京都大学野生動物研究センター）、湯本貴和、今井啓雄、服部裕子（以上、京都大学霊長類研究所）、田中正之、山梨裕美（以上、京都市動物園）、山本真也（京都大学高等研究院）、竹下秀子（追手門学院大学）、川上文人（中部大学） 以上 12 名。

陪席：有井秀幸（京都大学野生動物研究センター・事務掛長）、前川洋子（京都大学野生動物研究センター・GAIN 経理担当）

オブザーバー：藤井元（国立研究開発法人日本医療研究開発機構バイオバンク課）、鈴木智広（情報・システム研究機構国立遺伝学研究所）

I. 2020 年度活動報告について

資料（別添）に沿って、2020 年度の活動内容・コロナ禍の影響等について報告した。以下に、席上いただいたコメントの概要を記す。

- GAIN についての説明の際には「非侵襲的試料」が“生体から侵襲的に採取したのではない試料”を指すことを毎回示すべきである。かつて日本でも生きたチンパンジーからの血液採取や健康個体への薬の投与などが行われていたことがあるが、現在は行われていない。
- AMED 補助事業では、リソースの寄託・保存にかかる費用は負担できるが、利用者への提供にかかる費用は事業では負担できない＝利用者負担が原則である。
→なお、GAIN は類人猿の研究試料等に関する情報を取り扱う事業であり、リソース自体を取り扱っているのは霊長類研究所の共同利用・共同研究事業である。よって、GAIN 事業として利用者から提供料徴収をおこなうことはない。
- 今年度はシンポジウムや学会の中止が相次いだ。GAIN の活動についてさらなる周知が必要である。運営連絡会メンバーからも、広報活動の場についてご提案いただきたい。

II. 2021 年度以降の活動について

- 運営コアメンバーの変更：渡邊雅史（熊本サクチュアリ）→松崎里絵子（同）に交代。田和優子（野生動物研究センター特定研究員）が 2021 年 3 月末離任→2018 年度まで GAIN の専属職員だった綿貫宏史朗が 2021 年 4 月より着任。
→今後の運営連絡会では次年度事業計画書も提示すべきである。
- 国内のボノボ 6 個体は所有権がアメリカ（SSP：種保存計画）にあり、ボノボが亡くなった際の試料の扱いについてはアメリカの意向を確認した上で検討する必要がある。
- ゴリラ、オランウータンも国内では飼育個体が非常に少なくなってきており、今後は国際的な協力も必要となる。